

高退協 ニュース

高退協事務局

1983. 5.

No. 17

あいさつ 渋谷 巖
 五八年度総会報告 小川逸雄
 広末可平先生をしのぶ 山崎常吉
 好漢惜しむべし 富永三雄
 新役員紹介 事務局
 事務局だより 松高一正

あいさつ

会長 渋谷 巖

薫風新緑をわたる五月、暑からず寒からず、まことによい季節となりました。

会員のみなさん、お元気で過ごしのことと存じます。高退協は、一九七六年に、退職後の福利厚生をはかり、経済的・社会的・文化的・政治的地位の向上をはかるを主たる目的として発足いたしました。

具体的な活動として、ニュース・機関誌・名簿の発行・懇親会等々、会員相互の友情と連帯を強め、高教組と共闘しつつ、退職後の第二の人生を有意義にすごすために努力しています。

本年退職されたみなさん！高教組の旗のもとに結果し、勤評・学テ・安保を闘い、平和と民主主義・民主教育を守り発展のために職場で地域で活動され、長い間ほんとうにご苦労さんでした。心より敬意を表します。

これからは再就職して新しく出発される方、趣味と実益をかねる方、贈耕雨読に入る方、さまざまでしよすが、健康には充分注意して、健やかに頑張っていだきたいと思えます。

今日、私達をとりまわっている情勢は人動凍結による年金スライド見送り、老人保健法改悪、物価高騰で生活はおびやかされ、弱者いじめは一段と強化される中で、自ら改悪論者としてはばからぬ、戦後最悪の中曾根内閣は、不沈空母・三海峽封鎖発言に見られるように、日米軍事同盟の強化・軍拡へと狂奔しています。私達は今こそ決意をこめて平和憲法擁護・反戦平和・命と善しを守るために団結し、高教組を始め、各民主諸団体と協力共闘して、退職後の人生を心豊かに楽しく健やかに充実した日々を送れるよう頑張りたいと決意しています。

会員のみなさん！一層のご支援とご協力をお願いいたします。

五八年度総会報告

事務局長 小川逸雄

四月十六日、教育会館に於て、総会が開かれました。議長選出(平野副会長)の後、会長の組織・運営の説明をかねた挨拶の後、昨

年度の経過報告・会計および監査報告が行われ、役員選出につき、次の事業計画が提案され、決まりました。

- ① 会員名簿の発行
 - ② ニュースの発行
 - ③ 機関誌の発行
 - ④ 会員相互の親睦と研修
 - ⑤ 民主諸団体との情報交換ならびに共闘
 - ⑥ 県退協加入についで
- 会員相互に意見交換し、更に発展を期しつつ閉会。高教組主催の退職組合員を激励する会に合流しました。なお、平野副会長が特殊教育の任務多忙のため辞任されました。長い間御苦勞さまでした。

新会員紹介

- 森田 鉄亀 (仁徒高)
- 池上 真一 (高知農)
- 中内 真一 (追手前)
- 永江 純仁 (西高校)
- 上田 豊勝 (北高定)
- 市川 一郎 (北高定)
- 山本 誠一 (高知工)
- 北川 良吉 (高知工)
- 佐伯 良夫 (高知工)
- 山崎 博幸 (高知園)
- 木村 信男 (佐川定)
- 広瀬 雄助 (須崎工)
- 吉松 修夫 (播多農)
- 杉本 緑 (高ろり)
- 沢本タミ (山田美)
- 田村 輝 (若草美)
- 谷山 妙栄 (若草美)
- 正田 敏 (若草美)

広末可平先生をしのぶ

山崎常吉

半年ほど前までは、岡村病院に入院されていたながらも、ラグビーの試合を観戦され、お元気を姿を見せてくれていました。しかし「ガン」の病魔には勝てず、八年八月の闘病の結果、先生は二月九日正午前、多くの人々に見守られながら静かに息をひきとられてゆかれました。

広末先生との出会いは高岡高校でした。「勤評」「学テ」闘争の真只中で、学園の雰囲気は殺気だっていた。そのなかで生徒の猛者を集め、高岡高にラグビーありといわれ始めた時でした。聞けば先

生は往年の慶応ラグビーで「フッカーの広末」といえば、戦前のラグビー界では知らない人はいないといわれていた。みるからにラグビーの身体つきで、剛気の人でした。口数は少ないが、一度言い出した相手は威圧する迫力はすごかった。そのうえ勝負感にすぐれ「蒸」「マーシャン」の相手になられた方はいやというほど思い知らされていたことでしょう。

最後は、高知農で孫のような生徒を相手にされながらも生徒をひきつける話術は衰えていませんでしたが、その時からガンに侵され始めていました。三回の大手術を受けながらも、その都度、ラグビーの敢闘精神でのしきってまいりました。最後は気力つき、多くの仲間にも別れを告げず、去ってゆかれました。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。

享年六八才
 高知市宝町六一一四
 広末栄、電話75-8820

好漢惜しむべし

富永三雄

畏友、森本眞澄氏、一月十四日逝去。六十九才。苦しかった闘病生活であった。追手前・高岡で、共に通した日々の回想が、美しく、悲しい。几帳面な性格、強い意志、透徹した政治理念、教壇実践への衰えない意欲、そして、斗酒をも辞せずの痛飲ぶり、こんなものが渾然とした彼だった。さまざまの武勇伝が彼にはある。が、それは彼の虚像であって、実質は、人生の有為転変を、じっと耐え忍んで、波瀾万丈の行路を歩んだ人間であった。

酒酔のなかにある蕭々たるものを理解できずに、彼と永別してしまった。重い心臓病のために、ベイスメーカーを胸部に差し込んで五年間、死への迷獄をつづけた彼の苦悩を思ふと胸が痛くなる。「もう少し生きたい」と洩らした彼の言葉に、泌々とした父性愛を感じた。(彼の次男はまだに大学在学中である)

彼は今、生前に自ら建立した華山の納骨堂のなかで静かにねむっている。長かった彼との交友に感謝して、彼のご冥福を祈るのみである。

五八年度役員

- 会長 渋谷 巖
- 副会長 浜田昌俊
- 事務局長 山崎博幸
- 常任委員 小川逸雄
- 富永三雄
- 門田 豊
- 松高一正
- 市川 一郎
- 佐伯良夫
- 監査委員 杉本 緑

事務局だより

松高一正

◎ 五八年度会費の納入について
 のお願い。

高退協は会員に共通の組織がなく日常的な組織活動もありませんので会費の徴収が大変困難です。総会や親月会・忘年会など、年三・四回行なわれる会合の時とか、遠距離の方は郵便振替を利用してご送金いただいております。それ以外に高教組本部へわざわざ届け外ださるなどの努力を頂いていますが、昨年・一昨年の納入率はいづれも六三程度であり、会の運営上に支障をおこしています。

特に郵便料の値上げが諸印刷物の郵送費に大きくひびき、高教組本部の援助を受けてはならないことが部分的に生じています。高退協はこの点でまだひとり立ちした組織とはいいかねる状態です。ぜひ会員の皆さんの積極的な納入によって会の活動・運営がスムーズに行なわれるよう強く訴えます。

◎ 新退職会員の「感想文」のご寄稿について。

五月四日まで、ご退職の感想・抱負などを二百字くらいにまとめてお寄せ頂くようお願いしてありましたが、期日までに届いたのは五名の方だけでした。

掲載については、本十七号からの予定でしたが、他の記事が以外にかさんだのと寄稿数が少なかつたことなどをため、次号以下へ移します。ご了承ください。

できるだけ全員の方のご原稿を載せ交流を密にしたいと存じますので、次号(七月予定)に間に合うより、ぜひお寄せ下さい。